

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：22001

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇札幌市全体の共通指標において、本校では「分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。」子が85.9%、「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある。」子が82.4%と、疑問をもったり、課題を見つけた時に他者から意見を取り入れ、自分の考えに取り入れようとしたりしている。</p> <p>◇全国学力状況調査の全ての項目において全国平均を上回っている。</p>
	<p>◇左記の調査で、「自分の意見を進んで発言しようとしている。」子が66.7%である。この項目に関して本校は継続して低い傾向がある。発言の機会の確保だけでなく、伝え合いたくなる学級風土の醸成を通して、誰もが安心して発言できる教室を目指す。</p> <p>◇他者と関わり合い、学びを深める協働の姿に課題が見られる。上記の課題の改善と平行し、必要感と深まりのある協働が生まれるよう授業改善を進める。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇上記の調査で「自分にはよいところがある。」子が87.9%、「人の役に立てて嬉しいと感じることがある。」子が91.1%と自分のよさを自覚できていたり、他者へ貢献することに喜びを感じたりする児童が多い傾向にある。一方で「自分が必要とされていると感じる。」子が72.1%と、やや低く他者からの承認に関しては課題が見られる。</p>

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力 共に未来を創る子どもの育成 ～子どもが深化する授業を通して～

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>◇研究テーマ「子どもが深化する授業」の実現</p> <p>(1)協働を生む手立て 共通の目的意識や課題を生み、子ども同士の関わり合いへと繋げる手立てを講じる。環境構成やグルーピング、ツール等の活用により、間接的に協働の必要感を生む。</p> <p>(2)「深化」に向かう手立て 協働的な学びを経て、考えを一般化したり統合的に捉えたりするなどして、単元や本時の目標へと至る「深化」に向かえるような手立てを講じる。 多様な考えを関連付けたり、カテゴライズしたりする等を通して、子どもが多様な視点を得られるよう教師が関わる。</p>	<p>①思いを具現化し、子どもたちが進んでよりよい学校を築いていく委員会活動 →「何のための活動なのか」を子ども自身が考え、その考えに基づいて自分たちで決定できるような活動にしていく。 上級生の思いを汲んで、下級生が参加できるようにすることで、どの子も学校を創る一員だという自覚を高める。</p> <p>②集団への所属感や責任感を高め、子ども同士のふれあいを深めていく異学年交流（花の輪活動）→各学年による花の輪活動の企画・運営。 発達段階に応じて活動の意味を捉え、参加態度を磨く。</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
<p>◇発達段階に応じたICT活用に関するスキルの系統表を職員で共有し、6年間を通して計画的に活用スキルを育む。</p> <p>◇記録、データ収集、情報共有など、目的に応じて最適なアプリを選択、活用できるよう日常的な利用を進める。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

<p>新年度</p> <p>◇職員会議等での教職員間の共有。</p> <p>◇HPによる家庭や地域への周知。</p>	<p>【一人一人の教職員】</p> <p>◇「課題探究的な学習」を日常の授業で実践。</p> <p>◇学年や学校の児童理解。</p>	<p>【学校全体】</p> <p>◇学年研修、校内研究等による授業検討の充実。（定期的に部内研、全校研を実施する。）</p> <p>◇研修による学ぶ機会の充実。</p> <p>◇教職員間での児童理解の共有。</p>	<p>次年度△</p> <p>◇学校評価、研究全体会、新年度提案等、成果と課題を共有し、次年度に繋げていく。</p>
---	---	--	---